

要防除水準(水稲害虫)

作物名	病虫害名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	イナゴ類	6月下旬	ほ場内の任意の4地点において、畦際で捕虫網を各5回(計20回)振って調査する	すくい取り:100頭/20回	即時	(防除要否の目安)	滋賀県
水稲	イナゴ類	7月上旬	20回振りすくい取り調査(畦畔際)	100頭以上	即時		栃木県
水稲	イナゴ類	7月上旬以後	20回振りすくい取り調査	100頭以上	随時		千葉県
水稲	コバネイナゴ(圃場単位)	7月上中旬	畦畔際の20回振りすくい取り虫数	100頭以上:防除必要(発生量又は防除効果により散布回数を変更)	7月上中旬	指導参考	新潟県
水稲	コバネイナゴ	7月上旬~下旬	20回振りすくい取り	100頭以上	即時		秋田県
水稲	イナゴ	7月上旬~下旬	20回振りすくい取り調査	100頭以上	即時		山形県
水稲	イナゴ類	穂ばらみ期~出穂期	すくい取り(20回振)	100頭以上	随時	(要防除密度の目安)	兵庫県
普通期水稲	セジロウンカ	6月下旬~7月上旬(本田初期)	払い落とし調査	飛来盛期 成虫15頭/株以上	即時		鹿児島県
水稲	セジロウンカ	6月末~7月中旬(飛来初期)	払い落とし調査または見取り調査、水田内部で3ヶ所以上	4頭/株(飛来成虫数)	即時		福井県
水稲	セジロウンカ	6月下旬~8月上旬(飛来後、第1世代幼虫期)	見取り・払い落とし虫数:調査圃場内よりランダムに選んだ25株の虫数を調査する。株を3回叩き、A4版の黒色板上に払い落としした虫数をカウントし、株あたり平均虫数を計算する。	幼虫 10頭以上/株	即時		広島県
水稲	セジロウンカ	7月前半	払い落とし	10頭/株以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
水稲	セジロウンカ	普通期栽培で7月上旬	1株おきの10株払い落とし調査	飛来成虫密度 10頭/株	7月上旬		愛媛県
水稲	セジロウンカ(圃場単位)	7月上旬	20回振りすくい取り虫数	50頭以上:7月中下旬(幼虫増加期)に防除必要・50頭以下:その後の発生動向に注意	幼虫発生期	指導参考	新潟県

要防除水準(水稲害虫)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	セジロウンカ	7月上・中旬頃	見取り調査。任意の25株について株ごとに成幼虫を調査し、寄生数を求める	1株あたり10頭以上の寄生	随時		千葉県
水稲	セジロウンカ	7月上旬～下旬(成虫飛来期)	払い落とし、1圃場あたり25株調査	成虫 5頭/株	飛来盛期の2週間後		島根県
水稲	セジロウンカ	7月上旬～8月上旬	見取り調査、1圃場あたり25株	10頭/株	即時		奈良県
水稲	セジロウンカ	7月中・下旬(侵入世代)	すくい取り調査	20回振り50頭	穂揃い期以降		石川県
水稲	セジロウンカ(圃場単位)	7月中下旬	20回振りすくい取り虫数	300頭以上:防除必要・50頭以下:防除不要・中間量:成虫比率などを調査し、病害虫防除所などの指導を受けて要否を判断	幼虫発生期	指導参考	新潟県
水稲	セジロウンカ	7月下旬	ほ場内の任意の4地点において、畦から10列目の株を各5株(計20株)調査する	見取り:10頭/株	即時	(防除要否の目安)	滋賀県
水稲	セジロウンカ	7月下旬	ほ場で捕虫網を10回振って調査する	すくい取り:50頭/10回	即時	(防除要否の目安)	滋賀県
水稲	セジロウンカ	7月下旬	ほ場内の任意の4地点において、畦から10列目の株を各5株(計20株)調査する	払い落とし:10頭/株	即時	(防除要否の目安)	滋賀県
水稲	セジロウンカ	7月下旬	20回振りすくい取り調査、1圃場の任意の場所で調査	80頭	7月下旬		富山県
稲	セジロウンカ	7月下旬～8月	水面たたき落とし法	成幼虫数3～5頭/株	即時		埼玉県
水稲	セジロウンカ	7月下旬～8月上旬	払い落とし法 2株ずつ2～3ヶ所で調査	幼虫10頭/株以上	即時		山形県
水稲	セジロウンカ	7月下旬～8月上旬	1圃場あたり、25株×2ヶ所の計50株で調査	10頭/株以上	即時		鳥取県

要防除水準(水稲害虫)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
稲	セジロウンカ	7月下旬～8月上旬	見取り調査	成幼虫数10頭/株以上	即時		京都府
水稲	セジロウンカ	7月下旬～8月上旬(幼虫加害初期)	払い落とし調査または見取り調査、水田内部で3ヶ所以上	30～40頭/株(幼虫数)	即時		福井県
水稲	セジロウンカ	7月下旬～8月上旬(第1世代)	すくい取り調査	20回振り500～600頭	穂揃い期以降		石川県
稲	セジロウンカ	7月下旬～8月中旬	1圃場あたり任意の50株×2ヶ所について、株あたり発生個体数を見取り調査	株あたり10頭以上の発生が見られる場合	即時		岡山県
水稲	セジロウンカ	8月上旬	見取り調査、1圃場あたり25株について株上の成・幼虫個体数を計数	30頭/株	即時		群馬県
水稲	セジロウンカ(圃場単位)	8月上旬	20回振りすくい取り虫数	1000頭以上で幼虫比率が高い:病害虫防除所の指導を受けて要否を判断・1000頭以上で幼虫比率が低い:直ちに防除する必要ない。その後の発生動向に注意	幼虫発生期	指導参考	新潟県
水稲	セジロウンカ	移植直後成虫飛来期	見取り虫数:調査圃場内よりランダムに選んだ25株の成虫数を調査する。確認した成虫数をカウントし、株あたり平均成虫数を計算する。	成虫 2頭以上/株	即時		広島県
水稲	セジロウンカ	本田初期	見取り調査、予察圃場50株、巡回調査40株/圃場	飛来虫の株あたり寄生虫数 5～10頭/株	即時		長崎県
稲	セジロウンカ	移植11日以降(活着後)	払い落とし調査	6～10頭/株	即時		熊本県
稲	セジロウンカ	移植10日後まで(活着前)	払い落とし調査	2～5頭/株	即時		熊本県
稲	セジロウンカ	穂ばらみ中期まで	払い落とし、見取り調査	50頭/株以上	即時又は次世代幼虫時		山口県

要防除水準(水稲害虫)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
稲	セジロウンカ	飛来時	払い落とし、見取り調査	成虫10頭/株以上	即時	箱粒剤を施用していない場合	山口県
水稲	セジロウンカ	幼虫ふ化盛期(成虫侵入盛期の約3週間後)	粘着板法により10株相当を調査	幼虫数が35頭/株以上(中老齢幼虫15頭/株以上)	即時		秋田県
早期水稲	トビイロウンカ	6月	予察灯	6月20日までのウンカ類の誘殺数1000頭/半旬以上	7月中旬		鹿児島県
普通期水稲	トビイロウンカ	6~7月中旬	予察灯	ウンカ類の誘殺数5,000頭/半旬以上	7月下旬~8月上旬		鹿児島県
稲	トビイロウンカ	飛来時(6月下旬~7月中旬)	払い落とし、見取り調査	成虫10頭/100株以上	即時	箱粒剤を施用していない場合	山口県
水稲	トビイロウンカ	7月中・下旬(侵入世代)	見取り調査	株当たり0.2頭	穂揃い期以降		石川県
稲	トビイロウンカ	7月中旬~8月上旬	払い落とし調査	20頭/100株	即時		熊本県
水稲	トビイロウンカ	7月下旬頃	見取り調査。任意の25株について株ごとに成幼虫を調査し、寄生数を求める	1株あたり5~10頭以上の寄生	緊急に一斉防除		千葉県
普通期水稲	トビイロウンカ	7月下~8月上(本田中期)	払い落とし調査	短翅雌成虫20頭/100株以上	即時		鹿児島県
水稲	トビイロウンカ	普通期栽培7月末~8月初め	1株おきの10株払い落とし調査	短翅型雌成虫数 20~30頭/100株	即時		愛媛県
水稲	トビイロウンカ	7月下旬~8月上旬	払い落とし	20頭/100株以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
稲	トビイロウンカ	7月下旬~8月上旬	見取り調査、任意の100株を調査	短翅虫数20頭/100株以上	即時		京都府
稲	トビイロウンカ	7月下旬~8月上旬	払い落とし、見取り調査	成虫数20頭/100株以上	即時又は次世代幼虫時		山口県
普通期水稲(箱粒剤無施用の場合)	トビイロウンカ	7月下旬~8月上旬	払い落とし調査	10株あたり成虫数が2頭以上	幼虫ふ化揃い期等を考慮して臨機防除	箱粒剤無施用の場合(普通期水稲)	佐賀県

要防除水準(水稲害虫)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	トビイロウンカ	8月上旬	見取り調査、1圃場あたり25株	1頭/株	即時		奈良県
水稲	トビイロウンカ	8月初旬	払い落とし調査または見取り調査、水田内部で3ヶ所以上	0.1頭/株(短翅成虫数)	即時		福井県
水稲	トビイロウンカ	8月上旬	見取り調査、1圃場の任意の場所2~3ヶ所で、各25株の虫数を調査	短翅型成虫0.25頭/株	即時		富山県
水稲	トビイロウンカ	8月上旬	払い落とし	短翅型雌成虫 30頭/100株以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
水稲	トビイロウンカ	8月上旬(第1世代成虫)	任意の25株について払い落とし調査(3ヶ所程度)	1頭/株以上	要防除水準以上の発生を確認したら直ちに防除		岐阜県
水稲	トビイロウンカ	8月上旬	見取り調査、予察圃場50株、巡回調査40株/圃場	短翅型雌成虫寄生密度 20頭/100株	幼虫ふ化揃い期		長崎県
水稲	トビイロウンカ	8月上旬~出穂期	株元見取り調査	3頭/株	即時(早期)		山梨県
水稲	トビイロウンカ	8月上旬~中旬(第1世代老齢幼虫から成虫期)	払い落とし、1圃場あたり25株調査	成幼虫1頭/株	第2世代若齢幼虫期の防除		島根県
水稲	トビイロウンカ	8月上旬~9月中旬	虫数、払い落とし(25株)	0.2頭/株	即時		宮崎県
水稲	トビイロウンカ	8月中旬	払い落とし調査または見取り調査、水田内部で3ヶ所以上	1頭/株(成幼虫数)	即時		福井県
水稲	トビイロウンカ	8月中旬	1圃場あたり、25株×2ヶ所の計50株で調査	1頭/株以上	即時		鳥取県
水稲	トビイロウンカ	8月中旬	ほ場内の任意の4地点において、畦から10列目の株を各5株(計20株)調査する	払い落とし:1頭/株	即時	(防除要否の目安)	滋賀県
水稲	トビイロウンカ(成・幼虫)	8月中下旬	見取り調査	2~5頭/株	即時		香川県

要防除水準(水稻害虫)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稻	トビイロウンカ	8月中旬	ほ場内の任意の4地点において、畦から10列目の株を各5株(計20株)調査する	見取り:5頭/株	即時	(防除要否の目安)	滋賀県
稲	トビイロウンカ	8月中旬～8月下旬	払い落とし調査	100頭/100株	即時		熊本県
稲	トビイロウンカ	8月中旬～9月上旬	払い落とし、見取り調査	成虫数5頭/株以上	即時		山口県
稲	トビイロウンカ	8月中旬～9月上旬	見取り調査、任意の100株を調査	成幼虫数5頭/株以上	即時		京都府
水稻	トビイロウンカ	8月中旬・9月中旬	のぞき込み調査	短翅型成虫2～3頭/株	即時		神奈川県
水稻	トビイロウンカ	8月下旬	払い落とし	第2世代成・幼虫 5頭/株以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
水稻	トビイロウンカ	8月下旬 (第2世代)	見取り調査	株当たり10頭	即時		石川県
水稻	トビイロウンカ	8月下旬	見取り調査、1圃場の任意の場所2～3ヶ所で、各25株の虫数を調査	(1)中生:成虫・幼虫 10頭/株 (2)晩生:成虫・幼虫 5頭/株	即時		富山県
稲	トビイロウンカ	8月下旬～9月	水面たたき落とし法	成幼虫数3～5頭/株	即時		埼玉県
水稻	トビイロウンカ	8月下旬～9月上旬	1圃場あたり、25株×2ヶ所の計50株で調査	10頭/株以上	即時		鳥取県
水稻	トビイロウンカ	普通期栽培8月下旬～9月上旬	1株おきの10株払い落とし調査	成虫数 30頭/10株	即時		愛媛県
水稻	トビイロウンカ	9月上旬	見取り調査、1圃場あたり25株について株上の成・幼虫個体数を計数	10頭/株	即時		群馬県
水稻	トビイロウンカ	9月上旬	見取り調査、1圃場あたり25株	5頭/株	即時		奈良県
水稻	トビイロウンカ(成・幼虫)	9月上中旬	見取り調査	10頭/株	即時		香川県

要防除水準(水稻害虫)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
普通期水稻 (箱粒剤無施用の場合)	トビイロウンカ	9月上～中旬	払い落とし調査	1株あたり老齢幼虫及び成虫が5頭以上	幼虫ふ化揃い期等を考慮して臨機防除	箱粒剤無施用の場合(普通期水稻)	佐賀県
普通期水稻 (箱粒剤施用の場合)	トビイロウンカ	9月上～中旬	払い落とし調査	1株あたり老齢幼虫及び成虫が5頭以上	幼虫ふ化揃い期等を考慮して臨機防除	箱粒剤施用の場合(普通期水稻)	佐賀県
水稻	トビイロウンカ	9月中旬	払い落とし調査または見取り調査、水田内部で3ヶ所以上	40頭/株(幼虫数)	即時		福井県
水稻	トビイロウンカ	9月中旬	1株おきの10株払い落とし調査	成・幼虫数 200頭/株	即時		愛媛県
稲	トビイロウンカ	本田初期	払い落とし調査	10頭/100株	即時		熊本県
水稻	トビイロウンカ	出穂以降	見取り調査、予察圃場50株、巡回調査40株/圃場	短翅型雌成虫寄生密度 1頭/株	幼虫ふ化揃い期		長崎県
稲	トビイロウンカ	収穫30日前	払い落とし調査	300頭/100株	即時		熊本県
稲	トビイロウンカ	収穫1ヶ月以上前	1圃場あたり任意の50株×2ヶ所について、株あたり発生個体数を見取り調査	10頭以上寄生している株が見られる場合	即時		岡山県
水稻	トビイロウンカ	飛来後 第2世代幼虫期	見取り・払い落とし虫数:調査ほ場内よりランダムに選んだ25株の虫数を調査する。株を3回叩き、A4版の黒色板上に払い落としした虫数をカウントし、株あたり平均虫数を計算する。	5頭以上/株	即時		広島県
水稻	ヒメトビウンカ	2月～3月	水田畦畔で越冬虫の成・幼虫の縞葉枯病ウイルスの保毒虫率を調べる	保毒虫率4%	移植時～8月上旬		群馬県
稲	ヒメトビウンカ	4月～5月	保毒虫率の検定	保毒虫率5%以上	移植時～7月下旬		山口県

要防除水準(水稲害虫)

作物名	病虫害名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	縞葉枯病	5月下旬～6月下旬	ヒメトビウンカ第2回成虫:1株おきの10株払い落とし調査 保毒虫率:100頭を赤血球凝集反応法	(1)保毒虫率2%で 0.25頭/株 (2)保毒虫率20%で 0.01～0.02頭/株	本田初期		愛媛県
稲	ヒメトビウンカ	6月中旬(第1世代成虫の密度最高時)	100株あたりの媒介虫数	1.9～0.64頭	幼虫防除:1回		静岡県
稲	ヒメトビウンカ	6月中旬(第1世代成虫の密度最高時)	100株あたりの媒介虫数	15.8頭	成虫防除2～3回・幼虫防除:1回		静岡県
稲	ヒメトビウンカ	6月中旬(第1世代成虫の密度最高時)	100株あたりの媒介虫数	8.74～2.0頭	成虫防除1回・幼虫防除:1回		静岡県
稲	ヒメトビウンカ	6月中旬(第1世代成虫の密度最高時)	100株あたりの媒介虫数	10.0頭	成虫防除1～2回・幼虫防除:1回		静岡県
水稲	ヒメトビウンカ(縞葉枯病)	6月下旬	ほ場内の任意の2地点において、各200株(計400株)調査する	発病株率1%	即時	(防除要否の目安)	滋賀県
水稲	ヒメトビウンカ(稲縞葉枯病)	7月2半旬	払い落とし	第1世代成虫 3頭/10株、第1世代成虫+第2世代幼虫 30頭/10株以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
水稲	縞葉枯病	7月上旬～下旬	ヒメトビウンカ第2回成虫:1株おきの10株払い落とし調査 保毒虫率:100頭を赤血球凝集反応法	保毒虫率20%で 3頭/株	本田初期		愛媛県
水稲	縞葉枯病	前年の穂ぞろい期	ほ場当たり任意の300株を見取り調査	発病株率が10%を超える	翌年の移植時		栃木県
水稲	ヒメトビウンカ(吸汁害)	出穂期以降	すくい取り(20回振り)	900頭以上(幼虫)	即時		北海道
水稲	縞葉枯病	前年の越冬世代幼虫	ラテックス凝集反応法により保毒虫率を調査	保毒虫率が10%を超える	翌年の移植時		栃木県

要防除水準(水稲害虫)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	ヒメトビウンカ	第1世代幼虫最盛期	見取り・払い落とし虫数:調査ほ場内よりランダムに選んだ25株の虫数を調査する。株を3回叩き、A4版の黒色板上に払い落としした虫数をカウントし、株あたり平均虫数を計算する。	20~30頭以上/100株	即時(6月下旬)		広島県
水稲	ヒメトビウンカ	第2世代幼虫最盛期	見取り・払い落とし虫数:調査ほ場内よりランダムに選んだ25株の虫数を調査する。株を3回叩き、A4版の黒色板上に払い落としした虫数をカウントし、株あたり平均虫数を計算する。	150~200頭以上/100株	即時(7月下旬)		広島県
水稲	斑点米カメムシ類	出穂期	すくい取り:捕虫網(柄の長さ1m、口径36cm)を用いて調査ほ場内を20回左右に振り、捕獲虫数をカメムシの種類別に調査する。	カスミカメムシ類主体の発生地帯:虫数4頭以上/20回振りすくい取り(1等から2等への格下げ)	出穂期及びその10日後		広島県
水稲	斑点米カメムシ類	出穂期	すくい取り:捕虫網(柄の長さ1m、口径36cm)を用いて調査ほ場内を20回左右に振り、捕獲虫数をカメムシの種類別に調査する。	ホソハリカメムシ等主体の発生地帯:虫数2頭以上/20回振りすくい取り(1等から2等への格下げ)	出穂7日後~14日後		広島県
水稲	カメムシ類	出穂期~乳熟期	水田内畦畔際20回すくい取り	2~4頭	即時		福島県
水稲	斑点米カメムシ類	出穂後	本田1圃場あたり、捕虫網50回振りすくい取り調査	4頭以上/50回すくい取り	即時		鳥取県
水稲	斑点米カメムシ類	出穂15日後	20回振りすくい取り調査	クモヘリカメムシ幼虫:早生18頭以上、晩生6頭以上、ホソハリカメムシ幼虫:早生14頭以上	随時		千葉県
水稲	斑点米カメムシ類(クモヘリカメムシ)	穂ぞろい期	20回振りすくい取り調査	5頭以上	即時		栃木県

要防除水準(水稲害虫)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	斑点米カメムシ類	穂揃い期	20回振りすくい取り調査	クモヘリカメムシ成虫:早生6.7頭以上、晩生2頭以上、ホソハリカメムシ成虫:早生11.1頭以上	随時		千葉県
水稲	斑点米カメムシ類(アカヒメヘリカメムシ)	穂揃い期	すくい取り(20回振)	(1)2.6頭(中濃地域)(2)1.0頭(東濃地域)	乳熟期～糊熟期		岐阜県
水稲	カメムシ類	穂揃い期～乳熟期	すくい取り調査	山間山麓の早期、早植水稲で20階振りすくい取り調査で5頭以上	穂揃い期と乳熟期に2回防除を実施	多発生の場合	佐賀県
水稲	斑点米を発生させるカメムシ類	穂揃い期～乳熟期	すくい取り調査	20階振りすくい取り調査で5頭以上	乳熟期に防除を実施	並発生の場合	佐賀県
水稲	斑点米カメムシ類	乳熟期	虫数、すくい取り	1頭/25回	即時		宮崎県
水稲	アカヒゲホソミドリカスミカメ	乳熟期(第3回目以降の防除時期)	すくい取り(20回振り)	品種「ほしのゆめ」:1頭以上・品種「きらら397」、「ゆきひかり」:2頭以上	即時		北海道
水稲	斑点米カメムシ類	乳熟期	すくい取り(40回振)	3頭以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
水稲	斑点米カメムシ類	乳熟期	捕虫網による20回振りすくい取り調査	捕虫網による20回すくい取りで1頭	乳熟期～糊熟期		愛媛県
水稲	イネアザミウマ(黒点米)	早生出穂7日前頃	成虫すくい取り調査(20回往復)、水田畦畔沿い	100頭/20回往復すくい取り	即時		福井県
水稲	イネアザミウマ(黒点米)	出穂期	すくい取り:捕虫網(柄の長さ1m、口径36cm)を用いて調査圃場内を20回左右に振り、捕獲虫数を調査する。	成虫数300頭以上/20回振りすくい取り(1等から2等への格下げ)	出穂前10日～出穂始め		広島県
水稲	イネゾウムシ	-	見取り調査	被害株率90%以上	即時		北海道
水稲	イネゾウムシ	移植10日後	見取り調査	畦畔沿いの成虫数株当たり0.3頭	即時	箱粒剤無施用の場合	石川県

要防除水準(水稲害虫)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	イネゾウムシ	移植10日後頃	見取り調査。任意の25株について株ごと寄生成虫数を調査し、25株あたりの寄生成虫数を求める	1株あたり0.2~0.5頭以上	随時		千葉県
水稲	イネミズゾウムシ	-	見取り調査	10株あたり成虫数が5頭以上	成虫侵入ピーク時		佐賀県
水稲	イネミズゾウムシ	本田発生盛期	見取り調査、1圃場の任意の25株について葉・葉鞘の虫数を調査	0.3頭/株	本田発生盛期		富山県
稲	イネミズゾウムシ	5月	見取り調査、1圃場あたり10株調査	0.5頭/株	即時		三重県
水稲	イネミズゾウムシ	5月~6月	見取り調査、1圃場あたり任意の50株について株ごとの寄生成虫調査	1頭/2株	即時		山梨県
水稲	イネミズゾウムシ	5月、6月	見取り調査、1圃場あたり25株	0.5頭/株	即時		奈良県
稲	イネミズゾウムシ	5月上旬までの移植	見取り調査	成虫数1頭/株	即時		埼玉県
水稲	イネミズゾウムシ	5月中旬	見取り調査	畦畔沿いの成虫数株当たり0.3頭	即時	箱粒剤無施用の場合	石川県
稲	イネミズゾウムシ	5月中旬の移植	見取り調査	成虫数0.5頭/株	即時		埼玉県
水稲	イネミズゾウムシ	移植2週間後(5月中旬)	畦畔沿いの任意の50株を見取り調査	成虫が株当たり0.5頭以上	即時		栃木県
水稲	イネミズゾウムシ	5月20~25日(越冬世代成虫本田侵入期)	成虫見取り調査、水田畦畔から1m内部に入った場所100株	(1)80頭/100株(育苗箱粒剤施用済)(2)30頭/100株(育苗箱粒剤未施用)(3)20頭/100株(箱粒剤未施用 漏水田)	即時		福井県
水稲	イネミズゾウムシ	5月中旬~下旬(越冬成虫飛来盛期)	見取り調査、任意の25株について寄生成虫数を調査	成虫0.3頭/株	要防除水準以上の発生を確認したら直ちに防除		岐阜県

要防除水準(水稲害虫)

作物名	病虫害名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	イネミズゾウムシ	5月20～25日(越冬世代成虫本田侵入期)	成虫見取り調査、水田畦畔から1m内部に入った場所100株	前年50頭/100株	育苗箱施薬の実施		福井県
水稲	イネミズゾウムシ	5月中旬～6月下旬	1圃場あたり、25株×2ヶ所の計50株で調査	0.5頭/株以上	即時		鳥取県
水稲	イネミズゾウムシ	5月下旬	ほ場内の任意の2地点において、畦から10列目の株を各50株(計100株)調査する	見取り:0.5頭/株	即時	(防除要否の目安)	滋賀県
稲	イネミズゾウムシ	5月下旬	1圃場あたり任意の50株×2ヶ所(畦畔から3条目)について、株あたり発生個体数を見取り調査	(1)育苗箱施薬を行っていない圃場で越冬後成虫の寄生数が株あたり0.3頭以上の場合 (2)育苗箱施薬圃場で田植え後の飛来数が多く、成虫の食害によって稲の初期生育が抑制されると考えられる場合	即時		岡山県
水稲	イネミズゾウムシ	5月下旬	ほ場内の任意の2地点において、畦から10列目の株を各50株(計100株)調査する	被害株率90%	即時	(防除要否の目安)	滋賀県
水稲	イネミズゾウムシ	5月第6半旬	圃場あたり2ヶ所について50株以上を調査する	成虫による食害株率62%又は被害度18	5月第6半旬		青森県
水稲	イネミズゾウムシ	越冬後成虫侵入最盛期(平年:5月第6半旬)	畦畔際から2m程度のところを観察する。	1.3頭/株(100株あたり130頭)	越冬後成虫侵入最盛期(平年:5月第6半旬)		宮城県
水稲	イネミズゾウムシ	5月下旬～6月上旬	水田中央部までの50株を見取り調査	25頭/50株(稚苗移植)以上・35頭/50株(中苗移植)以上	即時		山形県
水稲	イネミズゾウムシ	5月下旬～6月上旬	見取り調査	越冬成虫の本田密度株あたり0.3頭または成虫の食害株率90%以上	即時	箱施用をしていない場合(要防除密度の目安)	兵庫県
水稲	イネミズゾウムシ	5月下旬～6月上旬	1圃場当たり100株程度の見取り調査を行う	株当たりの越冬成虫数が1頭以上	即時		長野県

要防除水準(水稲害虫)

作物名	病虫害名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
稲	イネミズゾウムシ	5月下旬～6月上旬(成虫飛来期)	見取り調査	育苗箱施用無:越冬成虫0.3頭/株(2)育苗箱施用有:越冬成虫1頭/株(施用有の場合は食害の激しい場合)	即時		京都府
水稲	イネミズゾウムシ	6月第1～2半旬	圃場あたり2ヶ所について50株以上を調査する	成虫による食害株率82%又は被害度25	6月第1～2半旬		青森県
水稲	イネミズゾウムシ	6月10日～15日(越冬成虫の発生最盛期、4月1日からの積算温度13.8以上で70日度～100日度)	見取り調査(120株)	0.5頭/株以上	即時		北海道
水稲	イネミズゾウムシ	6月10日～15日(越冬成虫の発生最盛期、4月1日からの積算温度13.8以上で70日度～100日度)	見取り調査(50株)	成虫食害株率70%以上	即時		北海道
水稲	イネミズゾウムシ	6月上旬	5列×10株=50株を調査し、成虫数、食害株率を算出	越冬後成虫0.3頭/株以上(食害株率90%以上)	6月上旬(水面施用)		秋田県
水稲	イネミズゾウムシ	前年6月上旬	5列×10株=50株を調査し、成虫数、食害株率を算出	越冬後成虫0.3頭/株以上(食害株率90%以上)	5月中下旬(箱施用・移植時施用)		秋田県
水稲	イネミズゾウムシ	移植直後から成虫が侵入する場合	見取り調査、任意	0.22頭/株	即時		福島県
水稲	イネミズゾウムシ	越冬後成虫発生初期(移植直後)	見取り虫数:調査圃場内よりランダムに選んだ25株の成虫数を調査する。確認した成虫数をカウントし、株あたり平均成虫数を計算する。	1頭以上/株	即時(成虫防除)		広島県
稲	イネミズゾウムシ	全作期移植10日後	見取り調査	成虫数0.3頭/株	即時		埼玉県
水稲	イネミズゾウムシ	移植後	株あたり成虫数	0.5頭/株(5%減収)	即時(水面施薬)		愛知県
水稲	イネミズゾウムシ	移植10日から成虫が多くなるほ場の場合	見取り調査、任意	0.37頭/株	即時		福島県

要防除水準(水稲害虫)

作物名	病虫害名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	イネミズゾウムシ(圃場単位)	移植後2週間頃(移植後低温の場合は調査を遅らせる)	畦畔から1mの位置で100株の食害指数(食害度)、または50株の成虫数	食害指数の平均値2以下(被害葉率11~20%以下):防除不要・食害指数の平均値3以上(被害葉率21~30%以上):防除必要・50株あたり成虫15頭以上:防除必要(発生量又は防除効果により散布回数を変更)	各薬剤の処理適期		新潟県
水稲	イネミズゾウムシ	移植10日後頃	見取り調査。任意の25株について株ごと寄生成虫数を調査し、25株あたりの寄生成虫数を求める	移植10日後頃の飛来成虫が2~3株に1頭	随時		千葉県
水稲	イネミズゾウムシ	本田初期	見取り調査、予察圃場50株、巡回調査40株/圃場	株あたり寄生越冬成虫密度0.5頭/株	移植1~2週間後		長崎県
稲	イネミズゾウムシ	本田初期	株あたり成虫数 畦畔から中央部へ連続50株2か所の計100株を調査	0.5頭/株以上	田植え後10~15日目	箱粒剤を施用していない場合	山口県
水稲	イネミズゾウムシ	越冬成虫飛込み期	虫数、見取り(25株)	0.5頭/株	即時		宮崎県
水稲	イネミズゾウムシ	越冬後成虫飛込盛期	見取り虫数:調査圃場内よりランダムに選んだ25株の成虫数を調査する。確認した成虫数をカウントし、株あたり平均成虫数を計算する。	(1)育苗箱施用田:1頭以上/株 (2)その他水田:0.3頭以上/株	即時(成虫防除)		広島県
水稲	イネミズゾウムシ	成虫本田侵入盛期	畦畔際から5~6歩入り、そこから中央に向かって25株見取り調査する	8頭/25株	即時		岩手県
水稲	イネミズゾウムシ	成虫本田侵入盛期	畦畔際から5~6歩入り、そこから中央に向かって25株見取り調査。	3頭/25株	翌年		岩手県
水稲	イネドロオイムシ	5月中旬頃(越冬成虫の本田侵入最盛期)	見取り調査。任意の25株について株ごと寄生成虫数を調査し、25株あたりの寄生成虫数を求める	成虫数が10株に2頭以上	随時		千葉県

要防除水準(水稲害虫)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	イネドロオイムシ	5月中～下旬	見取り調査	越冬成虫10株あたり1頭、卵塊数株あたり1個または白変葉が目立つとき	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
水稲	イネドロオイムシ	成虫侵入期(5月下旬以降に侵入開始)	ほ場当たり任意の100株を見取り調査	成虫が株当たり0.3頭以上	即時		栃木県
水稲	イネドロオイムシ	5月下旬頃(産卵最盛期)	見取り調査。任意の25株について株ごと卵塊数を調査し、25株あたりの卵塊数を求める	卵塊数が1株に1卵塊以上	随時		千葉県
水稲	イネドロオイムシ	5月下旬(越冬後成虫本田侵入最盛期)	見取り調査、1圃場の任意の25株について葉・葉鞘の卵塊を調査	0.5頭/10株	6月上～中旬		富山県
水稲	イネドロオイムシ	越冬後成虫侵入最盛期(平年:5月第6半旬)・産卵最盛期(平年:6月第1半旬)	畦畔際から圃場を観察する(100株を見取り調査)	100株あたりの成虫数が25頭以上、または100株あたりの産卵最盛期(平年:6月第1半旬)の卵塊数が80以上	粒剤:越冬後成虫侵入最盛期・粉剤:幼虫発生始期		宮城県
水稲	イネドロオイムシ	産卵盛期(平年で6月第2半旬)	見取り調査	卵塊数1～2個/株以上	即時		山形県
水稲	イネドロオイムシ	産卵盛期(6月上旬)	ほ場当たり任意の30株を見取り調査	卵塊数が株当たり3個以上	即時		栃木県
水稲	イネドロオイムシ	6月上旬(産卵最盛期)	見取り調査、1圃場の任意の25株について葉・葉鞘の卵塊を調査	5卵塊/10株	6月上～中旬		富山県
水稲	イネドロオイムシ	6月初め	見取り調査	株当たり1卵塊	6月中旬	箱粒剤無施用の場合	石川県
水稲	イネドロオイムシ	産卵盛期(6月上～中旬)	5列×10株=50株を調査し、卵塊数を算出	0.5卵塊/株以上	6月中旬		秋田県
水稲	イネドロオイムシ	6月中旬	ほ場内の任意の2地点において、各50株(計100株)調査する	被害株率50%	即時	(防除要否の目安)	滋賀県

要防除水準(水稲害虫)

作物名	病虫害名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	イネドロオイムシ	6月中旬	ほ場内の任意の2地点において、各50株(計100株)調査する	被害葉率20%	即時	(防除要否の目安)	滋賀県
水稲	イネドロオイムシ	6月中旬	見取り調査	食害葉率20%	即時		石川県
水稲	イネドロオイムシ	6月中旬(加害最盛期)	見取り調査	被害葉率20%以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
水稲	イネドロオイムシ(圃場単位)	越冬世代成虫密度の最盛期	100株の成虫寄生数	100株あたり10頭以下:防除不要・100株あたり30頭以上:防除必要(発生量又は防除効果により散布回数を変更)	茎葉散布剤:幼虫加害初期・水面施用剤:成虫密度盛期		新潟県
水稲	イネドロオイムシ	産卵最盛期	見取り調査	2.0卵塊以上/株	即時		北海道
水稲	イネドロオイムシ	産卵盛期	畦畔際から5~6歩入り、そこから中央に向かって25株見取り調査する	卵塊数13個/25株	即時		岩手県
水稲	イネドロオイムシ	産卵盛期	畦畔際から5~6歩入り、そこから中央に向かって25株見取り調査する	卵塊数3個/25株	翌年		岩手県
水稲	イネドロオイムシ(圃場単位)	卵塊密度の最盛期	30株の卵塊数	30株あたり25卵塊以下:防除不要・30株あたり90卵塊以上:防除必要(発生量又は防除効果により散布回数を変更)	茎葉散布剤:幼虫加害初期・水面施用剤:成虫密度盛期		新潟県
水稲	イネクビホソハムシ	ふ化最盛期	見取り虫数:調査圃場内よりランダムに選んだ25株の幼虫数を調査する。確認した幼虫数をカウントし、株あたり平均幼虫数を計算する。	幼虫 12頭以上/株	即時		広島県
水稲	ニカメイチュウ	5月~6月	フェロモントラップにより誘殺数を調査	6月10日までの総誘殺数が400頭以上	越冬世代成虫の発蛾最盛日10~14日後		栃木県
水稲	ニカメイガ	5月上旬~発ガ最盛期	ほ場の隅にフェロモントラップを設置し、累計誘殺数を調査する	累計誘殺数200頭以上	6月中旬	(防除要否の目安)	滋賀県

要防除水準(水稲害虫)

作物名	病虫害名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
稲	ニカメイガ	6～9月	粘着トラップを水田畦畔・高さ50cmに設置し、誘殺数を7日ごとに調査	ピーク日までの誘殺数(1)越冬世代:56頭以上(2)第1世代:144頭以上	即時		岡山県
水稲	ニカメイチュウ(地域単位)	6月第2半句以降	性フェロモントラップを1地域10個程度設置、誘殺数	6月第2半句までの誘殺数の平均値800頭以下:防除不要	第1世代		新潟県
水稲	ニカメイガ	6月中旬	ほ場内の任意の2地点において、畦から10列目の株を各50株(計100株)調査する	被害株率10%	即時及び8月上中旬	(防除要否の目安)	滋賀県
水稲	ニカメイチュウ(圃場単位)	6月20日頃	1圃場25株、葉鞘変色茎率	葉鞘変色茎発生株率50%以下:防除不要	第1世代		新潟県
水稲	ニカメイチュウ(地域単位)	6月20日頃	1地域40地点程度、1圃場25株の葉鞘変色茎発生株率	葉鞘変色茎発生株率20%以下:防除不要	第1世代		新潟県
水稲	ニカメイガ	6月中旬～下旬(第1世代幼虫ふ化最盛期)	1圃場あたり、25株×2ヶ所の計50株で調査	葉鞘変色茎率5%以上	即時		鳥取県
稲	ニカメイチュウ	6月末(第1世代)	見取り調査	葉鞘変色茎率5%以上	粉剤は発蛾最盛期後10～15日、粒剤は同3～7日の間		京都府
水稲	ニカメイチュウ	6月下旬	ほ場当たり任意の25株を見取り調査(地域では40ほ場)	葉鞘変色茎の株率が20%以上	第一世代成虫の発蛾最盛日5日後		栃木県
水稲	ニカメイガ	第1世代幼虫加害初期(6月下～7月初)	見取り調査、1圃場あたり25株について総茎数と葉鞘変形茎数を計数	葉鞘変色計5%以上	即時		群馬県
水稲(キヌヒカリ普通期)	ニカメイガ	7月中旬(1化期)	被害茎率を見取り調査する	1化期6.2%	即時	被害許容水準を5%減収とした場合	和歌山県
水稲	ニカメイガ	7月下旬～8月上旬(第1世代幼虫末期)	1圃場あたり、25株×2ヶ所の計50株で調査	被害株数10%以上または心枯茎率1%以上	8月中旬～下旬(第2世代幼虫の発生最盛期)に防除		鳥取県
水稲(キヌヒカリ普通期)	ニカメイガ	8月中旬(2化期)	被害茎率を見取り調査する	2化期3.4%	即時	被害許容水準を5%減収とした場合	和歌山県

要防除水準(水稲害虫)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	ニカメイチュウ(地域単位)	前年10月下旬～11月	1地域40圃場程度、1圃場40株の被害茎発生株率	被害茎発生株率60%以下:防除不要	第1世代		新潟県
水稲	ニカメイガ	出穂期10日前	50株5ヶ所の平均被害株率を算出する	被害株率4%	出穂10日前		青森県
水稲	ニカメイガ	第1世代幼虫期	葉鞘変色茎率:調査ほ場内よりランダムに選んだ25～100株の葉鞘変色茎を調査する。同時に、調査株の内、10株の茎数を調査し、調査茎数の基礎とする。	5～6%以上	心枯茎の出始め		広島県
水稲	ニカメイガ(第1世代)	5月～6月	フェロモントラップによる越冬世代誘殺数	越冬世代成虫総誘殺数が500頭以上	即時		長野県
水稲	ニカメイチュウ(1世代)	発芽最盛日の約1週間後(平年では6月7～10日)	見取り調査	被害株率10%	6月中旬		石川県
水稲	ニカメイチュウ(第1世代)	6月中旬頃	見取り調査。任意の25株について株ごと被害茎数を調査し被害株率を求める	葉鞘変色茎率が5%以上	随時		千葉県
稲	ニカメイチュウ(第1世代)	6月下旬～7月上旬	見取り調査	葉鞘変色茎率5%	即時		埼玉県
水稲	ニカメイガ(第1世代)	7月	見取り調査、1圃場あたり25株	被害株率10%	即時		奈良県
水稲	ニカメイチュウ(第1世代)	前年10月(前年稲刈後)	刈り株調査、1圃場の任意の100株について幼虫数を調査	刈株の越冬幼虫数 1000頭 / 10a	育苗時、本田		富山県
水稲	ニカメイチュウ(第1世代)	前年第2回成虫発生期)	予察灯調査、発生時期の総虫数を調査	50頭	育苗時、本田		富山県
水稲	ニカメイチュウ(第1世代)	前年第2世代末	見取り調査、1圃場の任意の25株について葉・葉鞘の虫数を調査	被害茎率2%	育苗時、本田		富山県
水稲	ニカメイチュウ(第1世代)	心枯茎の出る前(田植後25～40日)	葉鞘変色茎数を見取り調査	葉鞘変色茎1本/株以下ならば防除不要	即時		山形県

要防除水準(水稻害虫)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稻	ニカメイチュウ(第1世代)	第一世代被害発生時期	見取り調査	葉鞘変色株率10%以上	6月下旬(発蛾最盛期の10~15日後)	(要防除密度の目安)	兵庫県
水稻	ニカメイチュウ(第1世代)	第1回成虫	予察灯調査、発生時期の総虫数を調査	100頭	第1世代発蛾最盛期より15~20日後		富山県
稲	ニカメイチュウ(第2世代)	5月1日~6月30日(越冬世代成虫)	フェロモントラップ法	越冬世代成虫のフェロモントラップ総誘殺数400~500頭ノトラップ	8月下旬		埼玉県
稲	ニカメイチュウ(第2世代)	6月下旬~7月上旬	見取り調査	第1世代の芯枯茎率1.0~1.5%、同株率10%	8月下旬		埼玉県
水稻	ニカメイチュウ(第2世代)	7月中旬~下旬(第1世代末)	見取り調査、1圃場の任意の25株について葉・葉鞘の虫数を調査	被害茎率1%	第2世代発蛾最盛期より5~7日後		富山県
水稻	ニカメイチュウ(第2世代)	第2回成虫発生期	予察灯調査、発生時期の総虫数を調査	50頭	第2世代発蛾最盛期より5~7日後		富山県
水稻	ニカメイチュウ(第2世代)	第二世代被害発生時期	見取り調査	第一世代の被害が多かった場合	8月下旬(発蛾最盛日の7日後)	(要防除密度の目安)	兵庫県
普通期水稻	コブノメイガ	6~7月中旬	早期水稻予察田での成虫追い出し調査	10頭/m <sup>2</sup> 以上	即時		鹿児島県
水稻	コブノメイガ	7月中旬~下旬	20回振りすくい取り調査、1圃場の任意の場所で調査	1頭	7月下旬~8月上旬		富山県
水稻	コブノメイガ	7月中・下旬(侵入世代)	すくい取り調査	50回振り2頭	8月上旬		石川県
水稻(キヌヒカリ普通期)	コブノメイガ	7月下旬まで	上位2葉の被害葉率を見取り調査する	18%	即時(第1世代幼虫期)	被害許容水準を5%減収とした場合	和歌山県
水稻	コブノメイガ(幼虫)	7月末~8月上旬	見取り調査	被害株率20%程度	即時		香川県
水稻	コブノメイガ	8月上旬	見取り調査	上位2葉の食害葉率20%以上	8月中・下旬	(要防除密度の目安)	兵庫県

要防除水準(水稻害虫)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稻 中生、 晩生品種(日 本晴・滋賀羽 二重糯等)	コブノメイガ	8月上旬	ほ場内の任意の2地点におい て、畦から10列目の株を各50 株(計100株)調査する	被害株率20%	8月末～9月上旬	(防除要否の目安)	滋賀県
水稻	コブノメイガ	8月上旬～中旬	20回振りすくい取り調査、1圃 場の任意の場所で調査	2頭	虫・晩生対象 8月中 旬		富山県
水稻	コブノメイガ	8月上旬～中旬	被害株率:調査圃場内よりラン ダムに選んだ25株の被害葉の 有無を調査する。	県南部地帯:被害株率20%以 上	発蛾最盛期～7日後		広島県
水稻 中生、 晩生品種(日 本晴・滋賀羽 二重糯等)	コブノメイガ	8月中旬	ほ場内の任意の2地点におい て、畦から10列目の株を各50 株(計100株)調査する	被害葉率(上位2葉)20%	8月末～9月上旬	(防除要否の目安)	滋賀県
水稻	コブノメイガ	出穂期	見取り調査、1圃場の任意の2 5株の上位2葉について被害葉 を調査	上位2葉の食害葉率10%	穂揃い期		富山県
稲	コブノメイガ	成虫最盛期	払い出し	5頭/平方メートル以上	粒剤は即時、粉剤は 1週間後		山口県
稲	コブノメイガ	第1世代幼虫期	見取り調査	(1)被害株率20%以上(2)被 害葉率0.2%以上	第2世代幼虫期		熊本県
水稻	フタオビコヤガ(イネ アオムシ)	7月2～3半旬	見取り調査	被害株率50%	即時		兵庫県
水稻	フタオビコヤガ	幼虫発生期	第1回目(6月下旬)・第2回目 (7月下旬)・第3回目(8月下 旬)	第1回目(幼虫数2.7頭以上 /株)・第2回目(幼虫数8.7 頭以上/株)・第3回目(幼虫 数26.0頭以上/株)	即時		北海道

要防除水準(水稲害虫)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	ツマグロヨコバイ	7月上旬～中旬(=第1世代発生最盛期)(広域一斉防除地帯、個人防除地帯)・8月中旬(第2世代発生最盛期の1半前)(個人防除地帯)(発生時期には年次変動があるため、調査時期については発生予察情報などを参考に決定する)	捕虫網によるすくい取り調査(20回振り)	:すくい取り虫数50頭以上(成幼虫数)・8月中旬:すくい取り虫数1500頭以上(成幼虫数)	7月上旬～8月中旬		宮城県
水稲	ツマグロヨコバイ	7月中旬～下旬	見取り・払い落とし虫数:調査ほ場内よりランダムに選んだ25株の虫数を調査する。株を3回叩き、A4版の黒色板上に払い落としした虫数をカウントし、株あたり平均虫数を計算する。	40頭以上/株	早生種:穂ばらみ期～出穂期		広島県
水稲	ツマグロヨコバイ	7月中旬～下旬	すくい取り:捕虫網(柄の長さ1m、口径36cm)を用いて調査ほ場内を20回左右に振り、捕獲虫数を調査する。	40頭以上/株(20回振りで約5000頭)	早生種:穂ばらみ期～出穂期		広島県
水稲	ツマグロヨコバイ(第1世代成虫)(地域単位)	7月中下旬	20回振りすくい取り虫数	5頭以上:防除必要	幼虫発生期	指導参考	新潟県
水稲	ツマグロヨコバイ	7月下旬(第2世代幼虫～第3回幼虫)	20回振りすくい取り調査、1圃場の任意の場所で調査	40頭	7月下旬～8月上旬		富山県
水稲	ツマグロヨコバイ	7月下旬 2世代幼虫盛期	すくい取り調査	20回振り400～500頭	穂揃い期以降		石川県
水稲	ツマグロヨコバイ(第2世代)(地域単位)	7月下旬～8月上旬	20回振りすくい取り虫数	100頭以上:防除必要(発生量又は防除効果により散布回数を変更)	幼虫発生期	指導参考	新潟県
水稲	ツマグロヨコバイ	8月上旬	ほ場内の任意の4地点において、畦から10列目の株を各5株(計20株)調査する	見取り:20頭/株	即時	(防除要否の目安)	滋賀県

要防除水準(水稲害虫)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	ツマグロヨコバイ	8月上旬	ほ場内の任意の4地点において、畦から10列目の株を各5株(計20株)調査する	払い落とし:10頭/株	即時	(防除要否の目安)	滋賀県
水稲	ツマグロヨコバイ	8月上旬	ほ場で捕虫網を10回振って調査する	すくい取り:100頭/10回	即時	(防除要否の目安)	滋賀県
水稲	ツマグロヨコバイ	8月上旬	20回振りすくい取り調査	成虫2720頭以上	即時		栃木県
水稲	ツマグロヨコバイ	8月上旬(第2世代幼虫~第3回成虫)	20回振りすくい取り調査、1圃場の任意の場所で調査	200頭	8月上旬		富山県
水稲	ツマグロヨコバイ	8月4~5半旬(第3回成虫~第3世代幼虫)	20回振りすくい取り調査、1圃場の任意の場所で調査	200頭	8月下旬		富山県
水稲	ツマグロヨコバイ	8月下旬頃	20回振りすくい取り調査、成・幼虫の個体数を調べる	800頭以上	即時		群馬県
水稲	ツマグロヨコバイ	出穂前後(8月下旬~9月上旬)	すくい取り(10回振)	500頭	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
水稲	ツマグロヨコバイ	出穂前後(8月下旬~9月上旬)	払い落とし	50頭/株	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
水稲	黄萎病	10月	見取り調査。任意の500株について株ごと発病の有無を調査	再生株での発病株率が5%以上である地域	随時		千葉県
水稲	黄萎病	再生稲(前年の10月)	ほ場当たり任意の300株を見取り調査	再生稲の発病株率が5%以上	翌年の移植時		栃木県
水稲	ツマグロヨコバイ	田植~9月上旬	見取り調査	30頭/株	即時		山梨県
稲	ツマグロヨコバイ	早生品種の穂ばらみ期~出穂期	1圃場あたり任意の1ヶ所について、捕虫網20回すくい取り調査	捕虫網20回すくい取り調査で、2,500~3,000頭の成虫の発生が見られる場合	即時		岡山県
稲	ツマグロヨコバイ	早生品種の穂ばらみ期~出穂期	1圃場あたり任意の50株×2ヶ所について、株あたり発生個体数を見取り調査	株あたり20頭の成虫(成幼虫合計で40頭)の寄生が見られる場合	即時		岡山県

要防除水準(水稲害虫)

作物名	病虫害名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
稲	ツマグロヨコバイ	出穂期前後	見取り調査	成幼虫数30頭/株	即時		埼玉県
水稲	ツマグロヨコバイ	出穂期	見取り調査、任意	16頭/株	即時		福島県
水稲	ツマグロヨコバイ	出穂期	1株おきの10株払い落とし調査	成虫密度 30頭/株	出穂期		愛媛県
水稲	ツマグロヨコバイ	乳熟期	見取り調査、任意	24頭/株	即時		福島県
水稲	黄萎病	刈取り後	ほ場内の任意の2地点において、各200株(計400株)調査する	刈株再生芽発病株率:5%	翌年移植時	(防除要否の目安)	滋賀県
水稲	イネツトムシ	-	-	1齢幼虫が株あたり3頭程度(香川県を参考)	第2世代若齢幼虫期		宮城県
水稲(直播)	イチモンジセセリ(イネツトムシ)	7月下旬	見取り調査、1平方メートルの株を圃場あたり5ヶ所程度	若齢幼虫数:4.4頭/平方メートル(株)	即時		福井県
水稲	イネツトムシ	7月下旬~8月上旬	1圃場当たり100株程度の見取り調査を行う	株当たりの幼虫数が3頭以上	即時		長野県
水稲	イネツトムシ	7月6半旬~8月1半旬	見取り調査	ツトが株あたり0.5個以上	7月下旬~8月初旬	(要防除密度の目安)	兵庫県
水稲	イネツトムシ	7月下旬~8月初め	見取り調査 25株×2ヶ所調査	第2世代の1齢幼虫 3頭/株	若齢幼虫期		愛媛県
水稲	イネツトムシ	8月上旬	見取り調査	1頭/平方メートル	即時		山梨県
稲	イネツトムシ	幼虫若齢期(ふ化最盛4~7日)	見取り調査	幼虫数5頭/100株	即時		埼玉県
水稲	スクミリンゴガイ	稚苗移植前~移植3週間後	殻高15~20mm以上の貝の生息密度を調査する	2.5個体/平方メートル	即時	被害許容水準を5%減収とした場合	和歌山県
水稲	スクミリンゴガイ	移植後2週間以内	見取り調査	成貝数(貝高2.5cm以上)1.5個/1平方メートル以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県